

スマートウェイ2007は、

自動車文明の大きなターニングポイント

インタビュー
平井節生氏

国土交通省国土技術政策
総合研究所
ITS研究室長

2007年の実現に向け

研究、開発、実験、検討を重ねる

——いよいよ07年5月からスマートウェイ2007が始まりました。この経緯と目的について教えてください。

04年8月、スマートウェイ推進会議は提言「ITS、セカンドステージ」を発表しました。その中で、07年に多様なサービスの一つのITS車載器で利用できる車内環境を実現させることが求められています。これを受け、スマートウェイの早期実現を目指し、我々は鋭意努めてきました。

ここに至るまで、民間企業23社と我々、国土技術政策総合研究所(国総研)との共同研究、国総研構内での実験、スマートウェイ公開実験 Demo2006の開催などに取り組んできました。さらに、学識経験者の協力も得て、基本的なサービスの形態、安全性のチェックなどの机上検討や、ドライビングシミュレーターによるチェックもしてきました。

そして、いよいよ07年5月から公道に舞台を移し、約半年間の検討のうえで新しいサービスの試行運用へ。これがスマー

トウェイ2007の基本的な目的です。

——スマートウェイ2007での検証課題は何でしょうか。

スマートウェイ2007は、システムの安全性と有効性をしっかり評価、検証する非常に重要な期間と考えています。もちろん、これまで十分な検討をしてきましたが、最後の仕上げとしての公道実験は重大です。ドライバーが、これまで全く知らない新しいサービスを実道で受けたときにどう感じるかは、重要なチェックポイントと考えています。天候や交通状況、あるいは事故が起きたとき、渋滞しているとき、さまざまな状況下において、提供サービスの有効性を検証しています。

先進技術を結集し

多様なサービスを可能に

——多様なサービスメニューが用意されていますが、そのうち安全面でのサービスの特徴は何でしょうか。

安全性の向上に向けたサービスは大きな特徴の一つです。例えば合流支援情報では、本線を走行中の車に対し合流してくる車の情報を伝えます。また、

前方障害物情報は首都高速の参宮橋カーブで既に実績がありますが、カーブの先の停止車両等の情報を提供。前方状況情報提供は警報を発するのではなく、前方の状況を画像や音声で提供し、ドライバーがより安全に走行できるように判断してもらうサービスです。

——先進技術が駆使されていますが、その技術的な特徴は何でしょうか。

基本的な通信手段を、これまでVICSで使っていた2.5GHzの電波ビークンから5.8GHzのDSRCにアップグレードしています。これにより、走行中の通信容量が5倍ほどになるとともに、停車中の通信速度ではブロードバンドクラスの毎秒4Mbitを確保できます。このDSRC通信技術が大きなベースです。

また、ITS車載器でのカーナビ部も安全サービスに対応するために1秒以内の反応速度を目指しています。カーナビには既に音声機能がありますが、音声の復調システムを新たに装備させ、道路側から提供した「この先危険」といった情報をカーナビが発声できるようにしています。

さらに、将来的な利用としてプロ



事故多発合流部に導入されている「合流支援」情報(首都高速・東池袋ランプ付近)

ブの機能があります。加減速や走行履歴の情報などをITS車載器に記録、蓄積し、それを道路側に送信することで、所要時間の推定を大幅に高精度化できますし、道路管理や道路交通調査を合理化できると考えています。

世界をリードするスマートウェイ 社会を大きく変革していく

——スマートウェイ2007で、世界初のITS本格サービスが始まりますが、国際的な評価はいかがでしょうか。

カーナビ、ETCの普及において、日本は世界のトップランナーです。それに加え、今回、インフラと車載器との濃密なリンクができることは、世界をさらに大きくリードできる要素です。この、1台の車載器で多様な機能に対応できるという技術的なコアは、既にアジア諸国へ積極的にプレゼンテーションをしています。また、国際標準化にも積極的に取り組んでいます。

技術面でのリードだけではなく、カーナビやETCをだれもが使いこなしている日本人のカーライフのスタイルにも、外国人は瞠目しています。さらにカーナビがITS車載器へ進化し、安全サービスをはじめ、IP情報接続、音楽のダウンロードなど、車内の情報センターとして使われていきます。こうした新しいスタイルが日本で誕生するわけです。このスタイル自体、国外に発

信すべきものになると思っています。——カーライフを世界的レベルで変えるほどの意味を持つわけですね。

カーライフだけではなく、社会の変革にもつながるのではないのでしょうか。車は120年前の誕生以来、移動の道具として使われてきました。スマートウェイ2007をターニングポイントに、車の使われ方が変わると思います。自動車文明は移動の大革命でしたが、スマートウェイは移動に情報、空間、時間的な変革をもたらし、社会を大きく変革していくと期待しています。その幕開けを告げるのがスマートウェイ2007です。



平井節生 (ひらい・せつお)
国土交通省国土技術政策総合研究所ITS研究室長。1987年、建設省(当時)入省、世界銀行出向、松山河川国道事務所長等を経て2005年から現職